

加古川市協働のまちづくり基本方針(案)に関するパブリックコメントの実施結果一覧表

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
1	基本目標 1	地域の課題を解決するのに自分ごととして取り組めばよいのはその通りだ。みんなにその意識を持ってもらうことは難しいと思うが、大事なことなので、ぜひ進めてほしい。	
2	基本目標 1	行政がやっていることの中には、昔は、地域の活動としてそこに住んでいる人でやっていたこともある。自分たちの地域を、自分たちで良くしようと思ってもらうには、自分が活動しないといけないと気付いてもらう必要がある。	
3	基本目標 1	まちづくり活動を盛んにするには、仕事を退職して時間に余裕のある人たちにもっと活動してもらうことが必要だと思う。	
4	基本目標 1	まちづくり活動に関する情報発信方法として、集客力の高い事業所に活動事例を展示する掲示板等を設置することで、市のホームページ等での閲覧が難しい方でも情報に触れることが出来る。掲示板の設置であれば、多くの事業所が協力できると思います。	<p>市民の皆さんが地域の課題を自分ごととして意識し、地域を良くしようと活動してもらうことは重要であると考えています。</p> <p>「まちづくり活動を知る機会の充実」として掲げている、まちづくり活動の事例集や展示による活動の紹介、まちづくり講座の開催などを通して意識啓発に取り組みます。</p>
5	基本目標 1	加古川市として、BAN-BANテレビ、ラジオに入り込み、主体的に活用し、地域へ、世界へ情報発信しないか？	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
6	基本目標 1	<p>団体での活動を成功させるためには、年齢や参加者一人一人の社会的立ち場などに縛られない、さまざまな意見が自由闊達に議論できるようなフラットな関係の組織にすることが必要でそのような集団にするためには見識のあるリーダーの育成や、また参加者がさまざまな団体のかけもちも可能にするなど風通しの良い集団にすることが重要なのではないか。</p>	<p>より良いまちづくり活動にするためにリーダーの役割は重要であると考えています。 「まちづくり活動を知る機会の充実」として掲げている、まちづくり講座の開催や情報提供を行い、誰もがより良い活動ができる支援を行います。</p>
7	基本目標 1	<p>①市民一人ひとりが活躍する←一人でも地域のために活躍している人は居られると思うが、現状では何らかの団体に所属しないと評価されない。一人ひとりが活躍する場を作るために各種団体にマッチング（紹介）する制度も重要ではあるが、一人で素晴らしい活動をしている方を評価し、その活動を一緒にする人をマッチング、紹介する方向も必要ではないでしょうか？ 勿論、活動を紹介する上で精査は必要と思います。 ②現在の制度では、団体にのみ助成などの支援があるが、個人でも行政が精査し協働のまちづくりに貢献する内容であれば助成など検討できないでしょうか？個人では、資金力に限界もあり団体では出来るが個人的に素晴らしい企画などをしたくても実施出来ないこともあると思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、地域のために一人で素晴らしい活動をされている方がたくさんおられます。社会全体に貢献する活動を広めることは、この方針の趣旨でもあります。 「まちづくり活動・市政への参加の促進」として掲げている市民活動のマッチングは団体のみならず個人の活動も対象と考えています。また、助成などの支援についても、今後検討します。</p>
8	基本目標 1	<p>団体つまり集団での活動については、さまざまな活性化の方法が考えられているが、個人の活動についてはほとんど支援の方法が記述されていない。 個人で行いたいもしくは集団がいがてという人もいると思うので、個人での活動の支援または個人のアイデアや発想をどのように団体での活動につなげていくかなどの仕組みが必要なのではないか。</p>	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
9	基本目標 1	加古川市の高校生は、他市と比べても活発に活動されています。高校生による活動がもっと活発になるように、活動への参加の支援はぜひ行っていただきたいです。	高校生を始めとする若い世代がまちづくり活動を行うことは重要であると考え、協働のまちづくり推進事業補助金に学生枠を設けたところです。 「まちづくり活動・市政への参加の促進」として掲げているとおり、市政への提言を行う仕組みづくりを行うなど、今後も引き続き、若い世代のまちづくり活動が広がるように支援します。
10	基本目標 1	大学生及び市職員、市議会とのまちづくりに関する意見交換会の開催。 年に1度、加古川市及び近隣在住の学生と、市職員、市議会議員で地域の課題解決をテーマとしたワークショップを開催する。多世代での意見交換により、若い世代の市政への理解促進が期待される。	高校生や大学生を始めとする若い世代が地域の課題について話し合うことは重要であると考えています。 「まちづくり活動・市政への参加の促進」として掲げている取り組みの中で、若い世代がまちづくりに関する思いや意見を提言できる機会を確保し、市政に反映する仕組みを検討します。
11	基本目標 1	高校生、大学生による政策提言フォーラムの開催。 授業やゼミ等で高校生、大学生が作成した政策提言を市職員及び市議会等で発表する。 加古川市にとっては若い世代の目線での課題発掘、学生にとっては企画力の育成、地域愛を醸成する。若い世代の発想による今までにない新たな施策の発案が期待される。	
12	基本目標 2	地域活動拠点の整備とあるが、町内会などで活動していて困ったとき、近くに相談できる場所がないので、そういう場所になればいいと思う。	地域活動に関する相談や交流ができる拠点があることは重要であると考えています。 「地域コミュニティ団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、地域活動拠点のあり方について、地域の方々の意見も伺いながら施設とサポート体制について検討します。
13	基本目標 2	私の地域では、町内会の集会所でなくて地区集会所でいきいき百歳体操やふれあいサロンなどをやっていることが多いので、地区集会所の支援も充実してもらえると助かる。	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
14	基本目標 2	地域が行っている防災訓練とか、防災の備蓄とかに補助をしてもらえるとありがたい。	地域の方が主体的に行っている活動を支援することは重要であると考えています。 「地域コミュニティ団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、地域の団体が取り組まれている課題解決活動を資金面からも支援する方策を検討します。
15	基本目標 2	地域のことは地域ですが、市から依頼されて地域が実施する場合は、資金面のサポートも含めて考えてもらいたい。	
16	基本目標 2	町内会が市から依頼されてやっていることは、全て市が決めたことをやっているだけになっている。町内会で行うのであれば、決定してから話をもってくるのではなくて、相談しながら進めてもらった方が、町内会としても自分たちがやるんだという気持ちになる。	地域活動に中心となって取り組んでおられる方の支援は重要であると考えています。 「地域コミュニティ団体の活性化」として掲げているとおり、今後も引き続き組織を維持して活動してもらえよう、地区連合会長の負担の軽減や支援策、地域と行政との連携のあり方について皆さんのご意見を伺いながら見直しを進めます。
17	基本目標 2	町内会長はそこまでではないが、地区連合会の会長になると当て職も多く負担が増えて、みんなが避けたがる。今後も組織を維持して活動していけるように調整して、1人の負担を減らしてもらいたい。	
18	基本目標 2	地区連合会会長が委員となっている市主催の会議について、同日に開催するなど市全体で調整してもらいたい。	
19	基本目標 2	町内会長（役員）が委員となる会議・協議会が多すぎる。内容が似ているものは一緒にするなど市全体で見直しをしてほしい。	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
20	基本目標 2	<p>現状では、地域の自主防災組織など行政指針に基づき各町内会で組織はでき助成は受けているが、災害備蓄品を購入しているものの組織が機能していないのが現状ではないだろうか？</p> <p>機能していないだけであれば、まだ良いがトップの考えに温度差があり過ぎ組織があるが故に防災啓発が進まない地域も多いと意見を聞くことがある。地域の模範となるリーダーを表彰する制度は是非、推進してほしいが結局、行政から町内会に推薦＝町内会役員が選ばれ表彰されるに過ぎないシステムは意味をなさないと思う。行政が団体、個人を問わず加古川市のために尽力している人を精査し表彰することに価値があり、表彰された方の更なる活躍が期待できさらにはそれを見た市民が自分も頑張ろうという意識啓発につなげる。結果として協働のまちづくりに参画する市民が増えると思われる。</p>	<p>地域の課題解決に取り組む方を応援することは重要であると考えています。</p> <p>「地域コミュニティ団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、まちづくり活動に参加する市民が増えるよう、市のために尽力されている方が表彰される仕組みの構築を検討します。</p>
21	基本目標 2	<p>P1にあるように団体役員の高齢化、特定化により運営が困難になってきているとの認識からすると、次世代リーダーの育成支援や世代交代支援が方策として挙がってくるべきである。</p>	<p>いただいたご意見については、「地域コミュニティ団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、団体の活動が継続できる支援を検討します。</p>
22	基本目標 2	<p>団体がまちづくりの担い手として持続するためには、団体自らが行政ひいては市民の信頼・信用を獲得することが不可欠である。このためには組織や会計の透明化、情報公開が必須である。行政は地域コミュニティ団体や市民活動団体のガバナンスの確保・強化に向けた取り組みを支援する仕組みの構築をお願いしたい。</p>	
23	基本目標 2	<p>地域コミュニティ団体も地域活動団体もその多くが、自立した事務局機能・体制を構築できるかが課題であり、その支援にも取り組んでいただきたい。（市職員が肩代わりするのではない）</p>	<p>いただいたご意見については、「地域コミュニティ団体の活性化」、「市民活動団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、地域コミュニティ団体や市民活動団体を支援する仕組みを検討します。</p>
24	基本目標 2	<p>行政改革実行プランに「平成31年度に（仮称）地域コミュニティ活性化交付金を創設します」と記載してあるのだから、この項に記載している地域活動活性化のための補助金は既存の補助金と趣旨が異なることを明確に記載すべきである。</p>	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
25	基本目標 2	<p>本基本方針（案）は、多くの市民がこれまで以上に、より良い市民活動をするうえで、非常に励みになると、期待できると考える。</p> <p>つまりは、青年から高齢者まで広い世代に亘ってのビジョンが設けられ、興味や気持ちがあれば気楽にボランティア活動をはじめ、多種多様な市民活動への参画が期待できると思われる。</p> <p>ここで、ひとつ考えていただきたいのは、活動に参加、あるいは支えとなる市民がどのような人たちかを考えた場合、いずれの年代でもかなり多くの人たちが職業や家事を主体としており、その上でボランティア活動や市民活動に参加しているということである。</p> <p>活動に対する関与の程度は、人それぞれ異なると思われるが、いずれにしても自身の時間、場合によっては犠牲のうえに成り立っているとも言えるのではないだろうか。</p> <p>例えば、相談窓口については、フレキシビリティのある時間帯や陣容で運営できることも、ひとつである。</p> <p>かつての「まちこん」がそうであったように、行政と市民との隔たりを無くし、同じ目線で風通しのよい環境を醸成いただくようお願いしたい。</p>	<p>ボランティア活動や市民活動をされている方がより良い活動を行えるような拠点のあり方や、市民と行政とのスムーズな連携方法を考えることは本方針の重要なテーマです。</p> <p>「市民活動団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、団体の方が気軽に集い情報交換を行ったり、団体運営に関する相談ができる拠点のあり方などについて、皆さんのご意見を伺いながら検討します。</p>
26	基本目標 2	<p>私が所属する団体は活動資金の確保が課題であり、拠点となる施設に無料で使える打合せスペースがあるとありがたい。</p>	
27	基本目標 2	<p>まちづくり活動を始めるには、共感してくれる仲間を見つけることが重要だと思う。市民活動を行う人の交流拠点が誰でも気軽に集まれる場になればいい。</p>	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
28	基本目標 2	ウエルネス協会の定款に「コミュニティ推進に関する事業」とあるので、新たな拠点を整備するのではなく、当該協会を各協働主体間の中間支援組織として位置づけ、市民活動団体のみならず地域コミュニティ団体、企業、市民の相談・サポート拠点として体制を強化することとしてはどうか。一方、「新しい酒を新しい革袋に入れる」のであれば、ウエルネス協会の機能について再検討すべきである。	ボランティア活動や市民活動をされている方がより良い活動を行えるような拠点のあり方や、市民と行政とのスムーズな連携方法を考えることは本方針の重要なテーマです。「市民活動団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、団体の方が気軽に集い情報交換を行ったり、団体運営に関する相談ができる拠点のあり方などについて、皆さんのご意見を伺いながら検討します。
29	基本目標 2	市民活動団体が気軽に相談できる窓口を作してほしい。	
30	基本目標 2	市民活動団体が集まる場所は、県の施設が加古川駅の近くにあり、同じものを2つ作らなくてもよいと思う。まちづくり活動の表彰も県にあるので、県と市とが連携すればよいのではないかな。	いただいたご意見については、「市民活動団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、県とも連携を図りながら効果的に進めます。
31	基本目標 2	NPOをはじめとする市民活動団体のなかには、行政と協働して事業を行いたいと思っているところもあることから、次ページの尼崎市の取り組みにもあるように、提案型事業委託についても言及すべきである。	いただいたご意見については、「市民活動団体の活性化」として掲げている取り組みの中で、協働することでより効果のある事業について、市民活動団体から行政に対して提案できる仕組みを検討します。
32	基本目標 2	行政サイドのみでの検討ではなく、市民活動団体からも担うことのできる事業の提案を受けることとすればどうか	ご意見の趣旨については、「市民活動団体の活性化」として掲げている取り組みの中に盛り込んでいます。
33	基本目標 2	加古川市福祉コミュニティ条例において、事業者による地域連帯の形成に関する協力として、①人材、資力、施設の地域への提供等の理解と協力、②雇用者が地域連帯形成推進活動参加に際しての業務に支障ない範囲での便宜供与の2点について、それぞれ努力義務を課していることを受け、同一要素を盛り込むべきではないか	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
34	基本目標 2	事業者として、まちづくり活動を表彰してもらえると、活動を続けるモチベーションとなるので、ぜひ制度を作ってほしい。	「事業者のまちづくり活動の促進」として掲げている取り組みの中で、事業者によるまちづくり活動を認定・表彰する制度を検討します。
35	基本目標 2	私の勤めている会社では、会社がある町内会の夏祭りの協賛を行っている。今後は、他の町内会とも連携して防犯活動等を行っていきたくと考えているので、町内会とのパイプ役になってもらえると助かる。	事業者が町内会と連携しまちづくり活動に取り組むことは重要であると考えています。 「事業者のまちづくり活動の促進」として掲げている取り組みの中で、地域の課題解決に町内会と連携して取り組もうとされている事業者を支援します。
36	基本目標 2	多くの企業はCSR(Corporate Social Responsibility・企業の社会的責任)として様々な活動や取り組みを行っているものと思います。その中で「まちづくり」活動はCSRのなかの1つに位置付けられると考えますが、あえて「まちづくり」だけを強調し認定制度や表彰は「まちづくり」活動に該当しないCSRを行っている企業には、マイナスイメージにならないかという危惧がありますので、企業のCSR活動の促進にされてはどうでしょうか。	いただいたご意見については、「事業者のまちづくり活動の促進」として掲げている取り組みの中で、配慮しながら今後検討します。
37	基本目標 3	市長初め地域の市民を守る重責のある各諸団体の代表と一般市民が語り合える懇談会の実施	「まちづくり活動を行う主体間の連携の促進と仕組みの構築」として掲げている取り組みの中で、地域の課題について話し合いをする機会を設けることを検討します。
38	基本目標 3	記載の趣旨は十分に理解でき、必要な取り組みであるが、地域コミュニティ団体と地域活動団体とは、その組織のあり方や活動の手法からして相違しており、まずは相互理解から検討すべきと思う。	いただいたご意見については、「まちづくり活動を行う主体間の連携の促進と仕組みの構築」として掲げている取り組みの中で、地域コミュニティ団体と市民活動団体との相互理解を進める方策を検討します。

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
39	基本目標 3	市民活動団体が活動を拡大していくには、他団体との連携が必要だと感じている。団体と団体とをつないでもらえるとともに助かる。	活動がより発展するために市民活動団体が他の団体と連携することは重要であると考えています。「まちづくり活動を行う主体間の連携の促進と仕組みの構築」として掲げている取り組みの中で、市民活動団体に他の市民活動団体の情報を提供するなど、団体と団体とをつなぐ仕組みを検討します。
40	基本目標 3	市民活動団体の一員として活動しており、他の団体と連携することで、活動がより効果的になると実感している。団体情報の共有は、ぜひ進めてほしい。	
41	基本目標 3	<p>地域の高齢化孤立化の問題はどこの地域も悩んでおられます。問題を解決するため、各地域コミュニティーではそれぞれ年間行事を立てて実施されますが活動状況の格差が大きい。</p> <p>原因として</p> <p>①情報不足（いつ、なにを、どこに、尋ねたらいいか？） 現在市内6地区に分けて地域包括支援センターが活動されています。血压測定・百歳体操等年間4回の紹介はされているが残り8回の行事に苦勞されている。</p> <p>②行政間の連携不足、組織の縦割り 市役所管内間⇔地域包括支援センター⇔社会福祉協議会福祉課⇔協働推進課 それぞれの機関に地域課題を話しにくい。（わかってもらえない）</p> <p>③ボランティアグループ（個人、団体）の連携不足 ボランティアグループ間で地域コミュニティー団体に交流活動の紹介をし合う仕組みがない。</p>	「まちづくり活動を行う主体間の連携の促進と仕組みの構築」として掲げているとおり、地域の課題を解決するには団体と団体の連携や情報共有が重要であると考えています。団体間の連携を促進するために、お互いの情報や地域情報・課題の共有に取り組みます。また、「協働の視点による事業の推進」として掲げている取り組みの中で、市役所内の協働推進体制を構築し、各部署間の連携を強化します。

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
42	基本目標 3	一定の区域の運営となると、小学校区までの範囲が良いと思う。中学校区の範囲となると地区ごとの雰囲気は少し違ってくる。	<p>「まちづくり活動を行う主体間の連携の促進と仕組みの構築」として掲げている取り組みの中で、ある一定の区域の運営を行う組織の構築については、いただいたご意見も踏まえ、その支援策も含めて地域の方々と意見交換しながら検討します。</p>
43	基本目標 3	地区集会所を中心として、地区の取りまとめやイベントなどを行っていて世話をする事務の人がいるけど十分な手当を払っていない。地域の運営となると、それなりの手当を払わないと成り手はいないと思う。	
44	基本目標 3	地域の事は町内会が、ある程度、広い範囲は地区連合会が考えてやってきている。同じような組織が今は必要とは思わないが、市の方で新たに組織をつくるということであれば、会議などが増えて、町内会長（役員）の負担が増えることがないようにしてほしい。	
45	基本目標 3	おそらく、富士市の「まちづくり協議会」を念頭に地域内の組織の再編を意図しているものと思料するが、そのためには行政も「タテ」から「よこ」への変革が求められ、地域のニーズや課題を「丸ごと」受け止められるよう、市の出先機関（市民センター＋公民館）の機能強化が必要とされるのではないかと。また、当該富士市においてもまちづくり協議会の事務局は当面の間、市の出先機関であるまちづくりセンターが担うとしており、加古川市において同様のしくみを導入するにあたっては事務局機能を誰が、どう担うかについて検討の初期段階から認識して進めていただきたい。なお、当初行政が事務局機能を担うことはやむを得ないこととは思うが、その場合であっても「当分の間」といったあいまいな形ではなく、3年とか5年といった期限を定め、その間に協議会構成員のスキルアップを図る支援プログラムを提供するべきである。さもなければ、協議会は依存性が高くなり、官製協議会に墮することとなりかねない。	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
46	基本目標 3	市や地域の課題について、市民が自発的に問題を発見して行動し、それが行ないやすいように行政がサポートするという姿勢が行政側に必要で、行政が都合良く市民をタダでこき使える様な仕組みにしないことが重要だ。	地域課題の解決は、市民と行政などの各主体がそれぞれの立場で協働して取り組むことが大切だと考えています。「まちづくり活動を行う主体間の連携の促進と仕組みの構築」として掲げているとおり、市民の方による自発的な活動を行政が支援することで地域課題の解決を進めます。
47	基本目標 3	行政と大学との情報交換会の開催。 双方の担当窓口が関連する連携事業等の共有と連携企画の発案、検討を行い、行政と大学が連携をすることにより地域課題を解決する仕組みとする。	地域課題を解決するために大学の知見は大きな力となると考えています。「地域課題の解決に向けた専門的知識・技術の活用」として掲げているとおり、地域課題解決に向けて、より効果的な連携ができるよう協働で仕組みを構築します。
48	方針実現に向けた行政の体制づくり	協働推進の体制整備には財源の確保も含まれると思うが、その面からの記述がみられない。例えば、福祉コミュニティ基金の活用や市民との協働により縮減できた事業費用（人件費を含む）を新たな協働事業の財源に充当していくこと等も検討するべきではないのか。	本方針は、協働のまちづくりに関する基本的な方向性を示すものです。協働推進体制の整備に関しては、適切な予算を配分し進めます。
49	方針実現に向けた行政の体制づくり	市職員が、協働への理解、意識改革を図っていくこと、また市の行事はもちろん、まちづくり活動の積極的な参加を推進されることは、現在も多大な努力をされていることを評価すると共に、さらに進めていただきたい。 さらに言うならば、定年退職（再任用）後、地域に戻った時に、埋もれてしまうのではなく、地域で活躍していただきたい。 「在職中は市民の為に尽くしてきたから、一線を退いたら余生は自分のことを考えて暮らす」という声を聞いたことがある。一部の声だと思いたいが、県職員や教職員も含めて、現職で培ったノウハウ・スキルを埋没させるのではなく、一市民として地域で活かしていただきたい。 そうした意識付け・意識改革も必要ではないでしょうか。	市職員を含めすべての方が地域で活躍することは重要であると考えています。「市職員の協働に関する理解と意識改革」として掲げている取り組みの中で、協働に関する研修において、今後も引き続き、職員一人ひとりの協働の意義や必要性に対する理解と意識改革に取り組みます。

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
50	方針実現に向けた行政の体制づくり	<p>私は基本方針については大賛成です。ただこの方針を実現するには少し不安がありますので意見を申し上げます。</p> <p>第4章4で協働の領域のこれからⅡとⅢを拡大するとなっておりますが、加古川市に限らず行政の職員が協働という事業はⅣの行政主体が多く、これは職員に協働とはそういったものとの意識があるのが原因だと思います。</p> <p>そこで第3章3方針実現に向けた行政の体制づくり(1)市職員の協働に関する理解と意識改革となるのですが、①協働研修の充実というのは誰が誰を研修させるのでしょうか。おそらく若手職員の研修が主になるのでありませんか。</p> <p>しかしながら現在の加古川市の状況は、上級職に協働について無理解・無関心の方が多いように見受けられます。これではいくら素晴らしい基本方針を決定しても実現が危惧されます。</p> <p>若い人は第3章3を実行することで意識は変わるでしょうが、長い経験に裏付けされた意識はそう簡単には変わるとは思えず、岡田市長の強いリーダーシップが必要だと思います。</p> <p>「市民とともにみんなが住みたい加古川」をつくるという岡田市長の思いが、協働推進部をつくりこの基本方針策定につながっていると思いますので、加古川市の職員全員が市長の思いを同じくして協働の理解を深め意識改革が進むことを願っています。</p> <p>まちづくり活動にかかわっている者として第4章4Ⅱ・Ⅲの拡大には喜んで参画します。</p>	<p>今後ますます、市民が主体となるまちづくり活動を支援することが重要になると考えています。しかし、人により協働の概念の捉え方が異なっているのが現状です。そのため、「市職員の協働に関する理解と意識改革」として掲げているとおり、まず全職員が研修等を重ね、市民と行政がそれぞれの強みを生かし地域課題の解決に取り組むという意識改革を行う必要があります。更に、具体的な課題を皆さんと協働で解決することを積み重ね、「市民主体・行政支援」、「市民・行政主体」の協働本来の意味について共通理解できるよう進めます。</p>
51	方針実現に向けた行政の体制づくり	<p>高等教育機関との連携による市職員の能力開発。</p> <p>市職員の職能開発として、高度専門職養成制度を設け、市職員に対して市と連携する高等教育機関が大学院等での研究機会を提供する。</p>	<p>いただいたご意見については、「市職員の協働に関する理解と意識改革」として掲げている取り組みの中で、職員の研修制度の一環として検討します。</p>

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
52	方針実現に向けた行政の体制づくり	協働を推進する体制を整備し、市の各部署間でも連携してほしい。	<p>いただいたご意見については、「協働の視点による事業の推進」として掲げているとおり、協働推進体制をより一層充実します。</p>
53	方針実現に向けた行政の体制づくり	協働の趣旨からして、庁内の連絡会議のみでなく、地域コミュニティ団体や市民活動団体を交えた推進体制を構築すべきである。	
54	方針実現に向けた行政の体制づくり	市民活動団体からの提案事業のみでなく、市民活動団体が実施した事業についても評価すべきである。	<p>いただいたご意見については、「協働の視点による事業の推進」として掲げている取り組みの中で、事業の評価について、検討します。</p>
55	方針実現に向けた行政の体制づくり	行動の進捗状況の「評価」の前提となる毎年度の実施計画を策定し、当該計画を「評価」することにより、PDCAサイクルを確立すべきではないのか。	
56	方針実現に向けた行政の体制づくり	国と県と市がきちんと役割分担をして事業を実施してもらいたい。	
57	方針実現に向けた行政の体制づくり	この2行は単に行政機関間の連携を述べているだけで、市民協働と何の関係もない。	<p>「行政関係機関との連携の促進」として掲げているとおり、国全体の人口減少が進むなか、更に効率的に国、県等の行政関係機関と連携を図りながら課題解決に取り組みます。</p>

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
58	協働の考え方	協働は、相手に強制してはいけないと思うので、活動主体がお互いを尊重しながら取り組めるようにしてほしい。	相互理解は、協働で課題解決を行う上で重要だと考えています。「協働の原則」に、「それぞれの主体がお互いの立場や特性を理解し、尊重することが大切です。」と掲げています。
59	協働の考え方	それぞれの主体について、外部から可視化でき、オープンな状態であることが必要であることから、情報共有のみならず、情報の公開も原則とすべきである。	協働の進め方として必要な視点には様々なものがあります。「協働の原則」には、その中でも特に意識して取り組むものについて記載しています。
60	その他	素晴らしい基本方針だと思います。ぜひとも推進していただきたい。	
61	その他	地域の課題とたくさん出てくるが、加古川市として何が課題と考えているのか？ 地域の「課題解決」が多くみられるが、「地域の課題」とは、具体的に何が課題なのだろうか？ みんな集まって考えるところから始めるのか？逆に、市民が課題と感じていることを、加古川市が一生懸命に協働して解決するのか？課題を持っている市民と解決しようとする企業などを加古川市が結びつけるだけなのか？そのあたりが、よくわからないパンフレットに思いました。	本方針は今後のまちづくりの進め方を示したものです。これに基づき、皆さんと一緒に、多岐に及ぶ地域課題の解決をより効果的に進めます。
62	その他	大手の企業さんが提案、作ったパンフレット（違ってたらすみません）ではなく、もっと、泥臭い、職員さんも頑張ってる感のにじみ出たパンフレットのほうがいいと感じました。	
63	その他	基本方針の策定は評価するが、それ以上に市民との協働に向けた市の確固たる意思と高い志を明らかにするためにも条例を制定すべきではないのか	いただいたご意見については、参考とします。

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
64	その他	基本目標1の「誰かのために役立っている」「みんなに喜ばれている」と満ち足りた気持ちや生きがいを・・・目指します。はとても共感できる。 「役立っている」部分ですが、三つ目に「必要とされている」の言葉を付け加えてはどうでしょうか。	「基本目標1」として掲げている中には、ご意見の趣旨も含んでいましたが、より伝わりやすくするために「誰かに必要とされている」を追加します。
65	その他	「地域活動を中心となって担ってきた町内会」とあるが、「町内会」を「町内会・自治会」としたほうがよいのではないか。	「協働の主体」として掲げている中に、地域コミュニティ団体として町内会、自治会と記載し、「町内会」には当然「自治会」も含んでいましたが、より分かりやすくするために「町内会・自治会」に修正します。
66	その他	「80年代後半」→「1980年代後半」	「1980年代後半」に修正します。
67	その他	図について、中心になって役割を担うべき「団体等」が必要であると思います。加古川市がハブとしての機能を担うのか、若しくは新たな団体にハブ機能を期待するのかが今回の基本方針では不明瞭であり、長期スパンで見た場合、責任者不在で持続性に欠けることとなるのではないかと思います。「協働のまちづくり」を持続させるには、中心で各団体や個人等をつなぐ役割を持つハブ機能またはコーディネートする役割を担う「団体等」を持つべきではないかと考えます。 本来、加古川市が担うべきでしょうが、加古川市が行えないのであれば、行うことができる団体を加古川市が資金や情報、活動拠点等の様々な支援を行うことが求められているように思います。	当該図は、「協働」の概念をイメージ化したものです。いただいたご意見も生かし、各団体がどのような形で連携して協働のまちづくりに取り組むのか、皆さんと一緒に検討します。

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
68	その他	<p>表題を「参画と協働のまちづくり」でなく、「協働のまちづくり」の基本方針としているが、本文中の記述内容からして決して市民の「参画」を捨象しているものではないと考える。このことは後期総合基本計画にも「.....様々な分野において市民参画を推進し、市民と行政の協働によるまちづくりを推進する。」とあることから明らかである。であるならば、「参画」は協働の「下支え・土台」あるいは「プロセス」であり、いわば広義の「協働」の概念に「参画」が含まれていることを明確にわかるようにすべきである。（市民参画のまちづくり基本方針を別途策定するのであれば、現在の定義で差し支えはないが）</p>	<p>いただいたご意見については、参考とします。</p>
69	その他	<p>「.....社会は.....社会に突入した」、「流れは避けられないだけでなく、今後この流れは.....」、「価値観は多様化し、.....一様でなくなって.....ニーズや特性も多様化.....」、「.....解決する活動を行う.....団体も.....生まれ、.....課題の解決に向けた活動が行われて.....」というように一つの文中に同一語句が複数用いられており冗長感が否めない。前後の脈略を整理し簡潔な文章にされてはどうか。</p>	
70	その他	<p>人口減少社会への突入を「.....とされています」と現時点で伝聞体で記載する必要はないと思う。</p>	
71	その他	<p>社人研の人口推計を用いているが、市が策定した人口ビジョンの目標に沿って記載すべきである。</p>	
72	その他	<p>「子どもの見守り活動等の安全安心活動」「清掃活動等の地域の環境対策」、「防災への取り組み」の記載について、具体例をあげて活動分野を述べているが、表現の統一が図られていない。「○○活動等の○○への取り組み」とでもしてはどうか</p>	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
73	その他	特定化→固定化が一般的	
74	その他	加古川市では、平成7年に施行した福祉コミュニティ条例において、「福祉コミュニティの形成」として、「地域社会における新しい連帯の形成」を目指した。これは、現在の参画と協働による市政推進の魁ともいえる先駆的な取り組みであり、「連帯」と「協働」と、キーワードの意味合いに差はあるものの、このことを抜きにして、「本市におけるまちづくり活動」は語るができないのではないか。	
75	その他	「参加」と「参画」をどう使い分けて使用しているのか教示願いたい。私見ではあるが、「参画」とは、ある目的に向けての活動がより能動的かつより主体的であることをもってして、「参加」とは異なると理解している。そうであるならば、ここでは「まちづくりに参加」ではなく、「まちづくりに参画」のほうが、P4の図中、「市政への参加」も「市政への参画」のほうがそれぞれ相応しいのではないか。	いただいたご意見については、参考とします。
76	その他	「自分ごと」でも差し支えないとは思いますが、第7期介護保険計画の中核をなす地域包括ケアシステムの推進のキーワードの一つは「我がこと、丸ごと」であり、目指すところはなんら変わらないのであるから、「我がこと」にされてはどうか。	
77	その他	この図では①行政からのベクトルのみが記載されており、団体等からの提案といった逆向きのベクトルが表示されていない。②行政の施策が各団体を上下から挟んでいる理由がわからない。③上述とも関連するがこの図であれば団体は行政からの支援を受けてのみ活性化するように見える。自発的・自主的な取り組みもあるはずであり、それがわかるような図に改めてはどうか。	

No.	項目	ご意見等の内容	市の考え方
78	その他	行政から団体等への支援には、図中に表示された形態の他にも、「委託」、「共催・後援」、「提案」、「機会の提供」等もあるのではないかな。	当該図は、「基本目標2」の各施策の関係をイメージ化したものであり、支援の形態をイメージ化したものではありません。 ご指摘のとおり行政から団体等への支援の形には、様々なものがあると考えています。
79	その他	行政改革実行プランに、「公民館に地域課題の解決に向けた取り組みを進める機能を加え、地域活性化に向けた「(仮称)コミュニティセンター」の設置について検討し」、31年度中に結論を得ることとしている。また、加古川東病院跡地活用計画において、新東加古川公民館を「地域コミュニティの拠点施設」として位置づけている。これらのことを考え合わせると、現時点でも「情報交換できる地域活動拠点を『各町単位に』整備します。」と記載しても差し支えないのではないかな。	いただいたご意見については、参考とします。
80	その他	この写真は町内会・自治会への加入促進に関する協定書締結時の写真であるのでこのページには相応しくないのではないかな。掲載するならP8のほうがまだいいと思う。	
81	その他	地域課題の解決は目指すまちの姿の実現に包摂されるので、中央の「共通の目的(地域課題解決)」は、「共通の目的(目指すまちの姿の実現)」とするほうが表現が前向きとなってより相応しいのではないかな。	
82	その他	②地域コミュニティ団体にマンション等の管理組合も記載しておくべき	「②地域コミュニティ団体」は、地縁により形成された組織であり、マンション等の居住者により組織された管理組合も含んでいます。
83	その他	⑤市内には、農業高校、工業高校があり普通科の高校にもSSH等、部活動を含め特色ある活動を実施していることから大学等に高校も加えてはどうか。また、若い世代が高校卒業後、市外の大学や企業に在籍した後も、引き続き加古川市で活躍してもらうためにも早い段階でのきっかけづくりが必要ではないかな。	「大学等」は、専門的研究機関として位置付けています。また、「まちづくり活動・市政への参加の促進」として掲げている取り組みの中で、若い世代のまちづくり活動への参加を支援します。